［認知症対応型共同生活介護用］

評 価 結 果 概 要 表

【 評 価 実 施 概 要 】　　作成日　平成 ２０ 年 １ 月２４日

事業所番号	2772403916	評価機関名	特定非営利活動法人 近畿マネジメント・サポート・センター
法　人　名	有限会社　介護福祉協会		
事 業 所 名	グループ　ホーム　　さち	所　在　地	大阪市東住吉区山坂５－５－１４－１０３
所　在　地	大阪府枚方市釈尊寺町３－３８ 電話　０７２－８６０－２２００	評価調査日	平成　20　年　1　月　19　日
		評価確定日	平成　20　年　1　月　27　日

【 情 報 提 供 票 よ り 】（平成２０年１月　１日事業所記入）

（１）組織概要

開設年月日	平成17年8月1日
ユニット数	2　ユニット　　利用定員数　18 人
職　員　数	常勤　4 人　非常勤　8 人 常勤換算　5.6 人

（２）建物概要

建物の構造	木造瓦　　造り
	2 階建ての（ 1階～２階部分）

（３）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	５０，０００円 その他の経費（月額 25,000 円）		
敷　　金	無		
保証金の有無 (入居一時金を含む)	有 ５００，０００円 １年目以降は２０万円返却	償却の有無　有	
食 材 料 費	朝食　　円	昼食　　円	
	夕食　　円	おやつ　　円	
	または１月当たり　　45,000　円		

（４）利用者の概要（ １２月２２日現在）

利用者人数	18 名	男性　4　名	女性14 名
要介護１	5 名	要介護２	2 名
要介護３	7 名	要介護４	3 名
要介護５	1 名	要支援２	名
年齢　平均	80 才	最低６４才最高９６才	

（５）協力医療機関名

医療法人昭征会坂野病院 なかみどり細川歯科

【外部評価で確認された、この事業所の特徴】

職員の定着率は昨年に引続き良好で、家族の転勤による退職以外はなく,殆どの職員が開設当時からの方々であり、内外の研修も定期的に行われているので、介護のレベルの向上は期待できる。又、利用者の看取りでの個別記録を昨年から引続き実施しているので、この積み重ねがケアの改善に結びついている。日常生活の介護は、どの職員も一人ひとりの症状や能力に応じて適切な対応ができている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①		前回評価での主な改善課題と、その後の取り組み、改善状況（関連項目：外部４）
		利用者一人ひとりについて、過去からの生活習慣、気質等の把握が忍耐強く行われ、会話、看取り等によって記録の積み重ねが進められている。日常生活での身体活動の援助は、地道に実施されつつある。鍵かけは、玄関ドアから外はすぐ階段という建物上の難点があり、職員全員が一番の関心箇所となっており、防災上からも検討が行われている。
		今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部４）
		施設長を含む職員同志の人間関係が良好で、施設長は前回評価後の新任ではあるが、人間関係を含め業務の引継ぎも問題なくできており、引続き同様の介護を行いながら今日に至っている。今回の自己評価も職員の発言と提案をもとに作成された。
重点項目②		運営推進会議の主な討議内容、及びそれらを活かした取組み(関連項目：外部４．５．６）
		地域包括センターの指導もあり、平成１８年７月以来、平成１９年１２月までに８回開催されている。討議内容は、グループホームの日常介護の状況説明、利用者の日々の生活状況等であったが、最近は、出席者相互の提案等が、主な検討項目となってきている。
重点項目③		家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部７．８）
		家族アンケートでは、ほぼ、ご満足頂いており、特にご不満はなかった。定期的に個人の短信も郵送しており、またイラスト入りのホーム便りも郵送している。来訪時には職員が話し合いを行っている。但し、投書箱、書き込みノート等もあるが、利用されないままになっている。
重点項目④		日常生活における地域との連携（関連項目：外部３）
		ホームも自治会に加入している。利用者との散歩の途中で、通りがかりの地域の方々との挨拶や立ち話を行い、地域の行事等に参加させてもらっている。近隣からの通勤職員による地域との交流も行われている。

評　価　結　果　（　詳　細　）

（ ▒▒▒ 部分は重点項目です）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅰ　理念に基づく運営					
１　理念と共有					
1	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中で、その人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	経営主体は、認知症の高齢者と家族の方々に、安価で良質の介護と安心とを目標とした、独自の理念を掲げている。		
2	2	○ 理念の共有と、日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は理念の実践に向けて、毎日の職員の会合等で、理念の共有を図っている。		
２　地域との支えあい					
3	5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等の地域活動に参加し、地域の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、地域の運動会、盆踊りなどに参加させてもらっている。日頃の散歩の途中での挨拶を交わしている。		
３　理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	経営理念の展開のためにも、自己評価と外部評価の意義を理解して、日常の活動の改善を図っている。		
5	8	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について、報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスの向上に活かしている	平成１８年７月より２ヵ月毎に１９年１２月までに８回開催して来た。その都度、出席者で質疑を行ってサービスの改善に活かしてきた。	○	地域自治会と連携を図り、グループホームの活動の理解を、よりよくするために、広くＰＲを進められるよう検討してください。
6	9	○ 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括センターとの交流があり、主催される地域交流会にも出席している。		
４　理念を実践するための体制					
7	14	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び、個々にあわせた報告をしている	ご家族の来訪時には、職員が付き添って、話合いで現状報告等を行ない、また以前の生活内容等の聞き取りもしている。ホームだよりや手書きの短信を、請求書に同封するなど行っている		
8	15	○ 運営に関する家族等の意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族の来訪時に、意見等を伺うようにしている。投書箱や自由に書き込めるノートも設置してある。		

外部	自己	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
9	18	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来２年以上になるが、退職者は僅かで、勤続は安定し、職員の顔ぶれは殆ど変わっていない。		

５　人材の育成と支援

10	19	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修会へ職員を出席させている。内部研修は定期的に実施している。各職員を担当制により責任を負わせ、各種行事等の実施については、研修を兼ねて実施している。	○	職員の研修計画については、研修実績を把握しながら、全員のレベルアップへと推進してください。
11	20	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネツトワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議を通じて地域のホーム関係者との交流が一部行われている。今後更に深めるよう検討されている。		

Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援

１　相談から利用に至るまでの関係づくりと、その対応

12	26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し納得した上で、サービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご家族とも相談しながら、無理強いすることのないよう進めている。		

２　新たな関係づくりと、これまでの関係継続への支援

13	27	○ 本人と共に過ごし、支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員一同には、利用者を目上の方として尊敬の対話と、人間関係を深めるよう配慮している。		

Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

１　一人ひとりの把握

14	33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護の改善のために本人との対話を重視し、見聞した事項は本人の情報ファイルに記録できるように、組織として取り組んでいる。		

２　本人がより良く暮らしを続けるための介護計画の作成と、見直し

15	36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人の介護記録の積み重ねが出来つつある。計画の見直しは、それらの記録と職員の合意とで改善案を作成し、ご家族と相談している。		

外部	自己	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護記録を元に、６ヶ月に限らず職員との話し合いから、必要な改善案を作成して、ご家族、関係者と相談の上決めている。		

３ 多機能性を活かした柔軟な支援

17	39	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や、家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	運営者が福祉関係の事業を別途に展開しているので、それらを含めて事業所として、柔軟な支援を実施している。		

４ 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

18	43	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られた、かかりつけ医と、事業所の関係を築きながら、適切な治療を受けられるように支援している	殆どの利用者が事業所の契約医療機関に合意してもらっている。必要な治療が必要な場合は、支援を実施できる体制にある。		
19	47	○ 重度化や週末期に向けた方針の共有 重度化した場合や、終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびに、かかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者の加齢にしたがって、重度化や終末期は、当然のこととして準備や話し合いを行っているが、具体化までには至っていない。	○	組織として方針を決定し、また職員と話し合って共通理解が持てるように、準備を進めてください

Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

１ その人らしい暮らしの支援

(1) 一人ひとりの尊重

20	50	○ プライバシー確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの確保については、個々の知識として理解していても、組織としての動きになるように研修している。		
21	52	○ 日々の、その人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムや気質を尊重し、見取りや発見した言動記録を元に、出来る機能を活かしてあげるよう配慮されている。		

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個人毎に出来る範囲で、食事の手伝いを行ってもらっている。		

外部	自己	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
23	57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則的な入浴日はあるが、本人の希望に沿い、入浴してもらっている。		

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

24	59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	希望されることを優先している。レクレーションや各種の手伝いにも声かけで、できる方に参加してもらっている。		
25	61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりの、その日の希望にそって戸外に出かけられるよう支援している	希望に沿って外出したり、家族に手伝ってもらったりしている。		

(4) 安心と安全を支える支援

26	66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中、玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の構造が、表玄関、１・２階ともドアからすぐに階段となっている。安全上、已む無く鍵掛けを行っている。職員一同もこのことを常に念頭において、介護にあっている。	○	福祉ケア等の専門職の知恵も借りてください
27	71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難を念頭に、１階に重度の方がたを収容している。消防訓練や地元の方がたとも話し合っている。	○	避難方法、訓練等について、職員、消防署や、地元の方がたとも話合ってください。

(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援

28	77	○ 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは事業所の専門職により食材とともに供給されているが、リクエストによる食事や、外食も実施して楽しんでもらっている。		

２ その人らしい暮らしを支える生活習慣づくり

(1) 居心地のよい環境づくり

29	81	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の皆さんは、皆、にこやかに過ごしておられる様子だった。壁には季節感のある飾りがされている。共用スペースで畳敷の場所もあったが、椅子でくつろいでいる方が多かった。温度、明るさ等への配慮がされていた。		
30	83	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室は自由に持込んだ家具類で、居心地よく過ごしておられた。		